

NEWS LETTER



2020年4月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第1号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 山下喜久 編集 広報委員会

CONTENTS

- 第69回日本口腔衛生学会・総会の開催について
大会長挨拶
ミニシンポジウム/シンポジウムのご案内
- 日本口腔衛生学会広報委員会ニュースレターのご案内
- 生涯28のロゴマーク誕生!
- 第42回むし歯予防全国大会 in 新潟 開催に関するご案内
- 大学/研究機関の教室紹介
- 各種お知らせ
- 学会ニュースレター発刊に際して
- 広報委員会より (編集後記)

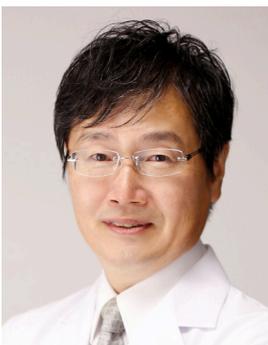
第69回日本口腔衛生学会・総会の開催について

<http://www.kokuhoken.jp/jsdh69/>

2020年4月24(金)25(土)26(日) **福岡国際会議場** (福岡県福岡市)

大会長挨拶

埴岡 隆 (福岡歯科大学口腔保健学講座 教授)



この創刊号に、普段とは異なる大会のご挨拶をさせていただくことをお許しください。
第69回日本口腔衛生学会・総会は2020年4月24日(金)～26日(日)の会期で、福岡市国際会議場において盛大に開催するため準備をしまりました。ところが、中国で始まった新型コロナウイルス感染はわが国にも波及し、ついには、急速な拡大を懸念する状態まで進みました。一時は、参加者を制限し、発表・講演の模様を後日発信する方式も検討しましたが、最終的に誌上開催となりました。会員の皆様をはじめ、講演や現地での研究発表を予定されていた皆様、研究発表準備に関わりました口腔保健協会の皆様方、学会・大会実行委員会の先生方と悔しい思いを分かち合い、学会・総会の目的・目標を少しでも成果に繋げたいと存じます。

今大会の内容は、日本口腔衛生学会の今後の活動について、これまでの経験と新しい知見を踏まえて、学会各委員会の先生方が知恵を絞って企画されたシンポジウムを中心に、特別講演、教育講演をはじめ、開催校が位置する地域性や期待分野も加えて、会員が地域・臨床の現場で活躍するための研鑽や研究開発のテーマの発掘などに役立つと思われる内容で構成しました。今、会員の皆様のお手元には、学会増刊号(講演抄録)が届いていることと存じます。誌上開催となりましたが、会員の皆様一人ひとりが、今大会の内容をお近くの非会員に伝えていただくことにより、大会が、より多くの国民の健康の向上に貢献することを願っています。今後、参加登録された方々に、さらに詳しい情報をお伝えできるように努力する所存です。

ミニシンポジウム 1

4月24日(金)

座長：安細敏弘（九州歯科大学地域健康開発歯学分野 教授）

研究者のための論文の書き方講習 —今日から使える質向上のイロハとは PART Ⅲ—



日本口腔衛生学会編集委員会では、令和2年4月24日（金）から福岡市で開催されます日本口腔衛生学会総会でミニシンポジウムを企画しています。

タイトルは、「研究者のための論文の書き方講習—今日から使える質向上のイロハとは PART Ⅲ—」です。講師は内藤真理子先生（広島大学大学院）と永田英樹先生（関西女子短期大学）です。両氏にはこれまでの豊富な研究活動を踏まえたピンポイントな対策について話していただきます。論文作成にハードルを感じておられる方や論文を投稿したが戻ってきた査読結果にどう対応したらいいか、わからず苦勞した経験をお持ちの方にとくに参加いただきたい内容となっています。是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

ミニシンポジウム 2

4月24日(金)

座長：八木 稔（新潟リハビリテーション大学医療学部 非常勤講師）

フッ化物応用による歯のフッ素症の評価 —とくに6歳未満における局所応用の考え方—



フッ化物応用を導入する際、その応用に関する歯のフッ素症の発現を評価することが重要で、水道水フッロリデーションなど全身応用に関しては、原則的な理解が得られていると言えるでしょう。一方、局所応用については、高濃度のフッ化物配合歯磨剤は「6歳未満の子どもへの使用を控えること」、あるいは「6歳未満のフッ化物洗口は禁忌である」などと記されていますが、局所応用に関する歯のフッ素症の評価については、あまり議論されていないようです。

そこで、歯のフッ素症の評価について検討し、局所応用を奨めるときの知識を整理する機会をもつために、このミニシンポジウムを企画しました。多様な専門家による参加と討論を期待しています。

シンポジウム 1

4月25日(土)

座長：尾崎哲則（日本大学歯学部医療人間科学分野 教授）

歯科衛生士が、そこにいる価値



「歯科衛生士が、そこにいる価値」の意味するものは、歯科衛生士が配置されているか否かではなく、そこで歯科衛生士の業務が行われたときに、どのような価値が生じるということです。今、改めて歯科衛生士がいることが、国民のために、保健医療福祉のために、そして歯科界のために、どのような価値があるかを、確認するために企画をしました。特に、今回は事例のすべてを、地元「福岡県」で活躍する歯科衛生士さんをお願いしました。この面からは、身近な事例であるかもしれませんが、十分皆さんと共有できる優れた事例です。最後には、会場の皆様とともに、このテーマについて深めていく予定です。

シンポジウム 2

4月25日(土)

座長：小川祐司（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座予防歯科学分野 教授）

高齢者口腔保健調査研究，アジア版共通プロトコルの作成を目指して



国際交流委員会では、国際貢献の一環として「アジア高齢者口腔保健コンソーシアム」構想を掲げ、高齢化が進むアジアにおいて高齢者口腔保健調査研究の支援を活動目標にしている。昨年の琵琶湖大会では、調査研究に用いるプロトコル作成支援の方向性について議論を行った。本年の福岡大会では、「高齢者口腔保健調査研究，アジア版共通プロトコルの作成を目指して」と題してシンポジウムを企画し、プロトコルを実際に作成・構築していくために考慮すべき内容について、3人の演者に登壇いただき議論を行う予定である。アジア地域の特性を顧慮しながら、プロトコルの内容や活用方法について、それぞれの専門的立場から議論を深めたい。

シンポジウム 3

4月25日(土)

座長：深井稔博（日本口腔衛生学会 副理事長・地域口腔保健委員会 委員長）

日本口腔衛生学会専門医制度の創設に向けて



本学会では、2021年度総会時の専門医制度創設に向けた検討が進められている。また日本歯科専門医機構においても、申請学会専門医制度の認証が始まっているところである。

本学会が目指す専門医制度は、社会歯学系の学会として公衆衛生に関する基本的理解に立脚し、多様な関係者と緊密に連携しながら、個人から集団および地域社会までを対象とした予防歯科と地域歯科保健活動を効果的に推進できる専門的知識・技術を有し、歯科保健医療制度の発展に寄与できる歯科医師の養成・確保を図ることが目的である。

本シンポジウムにおいて、新たな専門医認定基準、研修および現行の認定医、指導医制度との関係などについて、現時点の検討状況を紹介し、広く会員の意見を反映した制度設立を図る。

シンポジウム 4

4月25日(土)

座長：相田 潤（東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 准教授）

人生100年，生涯28を達成するためのフッ化物応用の公衆衛生アプローチ



「う蝕は減った」と言われますが、その疾病の重要性は依然として大きいものです。まず何よりも、未だに他の疾患に比べ極めて高い有病率です。さらに高齢者では、歯の喪失が減り、う蝕を有する人は増えています。また、う蝕は主要な歯の喪失原因です。歯の喪失はQOLを低下させ、健康寿命の喪失にもつながります。

う蝕の対策として、フッ化物応用、とくに公衆衛生的な集団フッ化物洗口は、ひとり親家庭や貧困世帯の子どもであっても恩恵を受けやすく、う蝕とその健康格差を減らします。本シンポジウムでは、フッ化物洗口の科学的知見や日本国内で現在最もフッ化物洗口が進んでいる九州地方での実践の紹介を通し、全国の行政やそれを支援する歯科医師会や大学の方々に活用していただくことを目指しています。皆様のご参加をお待ちしています。

シンポジウム 5

4月26日(日)

座長：山本龍生（神奈川歯科大学大学院歯学研究科災害医療・社会歯科学講座 教授）

『生涯28』の科学的根拠について考える



本シンポジウムの目的は、学会声明「健康な歯とともに健やかに生きる－生涯28（ニイハチ）を達成できる社会の実現を目指す－」を知っていただき、理解を深めていただくことです。まず「生涯28を目指す意義」を山下理事長に説明していただきます。続いて「生涯28」がもたらす社会的利益についての科学的根拠について、声明にある3つのテーマに分けて、シンポジストの先生方に解説していただきます。3つのテーマとは、「歯の喪失のQOLへの影響」、「歯の喪失の全身の健康への影響」、「歯の喪失の歯科・医科医療費への影響」です。本学会ならではの先進的なシンポジウムです。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

シンポジウム 6

4月26日(日)

座長：森田 学（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野 教授）

個人を対象としたう蝕予防ガイドライン作成の試み



昨年の滋賀県での学会で、「個人を対象としたう蝕予防ガイドライン作成におけるクリニカルクエスト（CQ）」を公募したところ、多くのCQが集まりました。今回、その中から2つ（CQ-1：唾液の分泌促進は根面う蝕を予防するか？、CQ-2：定期的な歯科医院での検診とフッ化物塗布は、これを行わない人と比べてどの程度う蝕予防に有効か？）を選び、委員会で関連論文の抽出、評価作業を行いました。将来は、CQをさらに集めて、口腔衛生学会ならではの予防歯科臨床ガイドラインを整備したいと思います。「もっと大事なCQがある」、あるいは「一言意見したい」会員の皆様の参加をお待ちします。

日本口腔衛生学会広報委員会ニュースレターのご案内

2020年4月より、満を持して日本口腔衛生学会のニュースレター発行がスタートしました。広報委員会で担当チームを作り、特集記事を毎号企画しながら、口腔衛生に関する情報を皆様にお届けします。本会のホームページや会員メーリングリストを通じて、年4回PDF版発行を予定しています。

学会のニュースレターは会員間の情報交換としてだけでなく、非会員や社会一般への情報発信のツールとしても役立つことが期待されます。学会発表や論文などの学術報告とソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）の中間に位置する情報交換ツールとして、多くの方々に親しんでいただけるものを作りたいと考えています。

なお、会員の皆様が最近発行された論文や著書について、原稿を募集しております。学術セミナーやイベントなどについても、ニュースレターを通じて情報共有したいと考えています。積極的に情報をお寄せいただきますよう、お願いいたします。

会員の皆様には、本ニュースレターを会員相互間の情報交換のためだけでなく、他職種や広く一般市民に対して本学会を紹介するツールとしてご利用いただけることを願っております。そのためにPDFファイルの転送や印刷物の配布はご自由に行ってください。ニュースレターに関する問い合わせや情報提供につきましては、日本口腔衛生学会事務局（gakkai37@kokuhoken.or.jp）までお知らせいただきますよう、よろしくごお願いいたします。

（広報委員会 内藤真理子）

生涯28のロゴマーク誕生！



日本口腔衛生学会は「健康な歯とともに健やかに生きる－生涯28（ニイハチ）を達成できる社会の実現を目指す－」の学会声明を発表し、生涯を通して病的な抜歯のない社会の実現を大きな目標として掲げました（2018年5月）。

目指すのは、ライフステージを通して口腔を適切に管理することで28歯が健康な状態で残り、その結果として全身の健康を保ち豊かな人生を全うすることです。歯科矯正治療のための抜歯などの例外を除けば、歯科医院を上手く利用することで28歯を生涯守り通すことが可能であることを国民的なコンセンサスに育て上げます。

この学会声明の考え方を社会に広げる一環として、生涯28のロゴを作成いたしました。作成者はイラストレーターのw.okada氏。理事会やあり方委員会のメンバーの芸術センスも取り入れ、和風テイストの風情あるデザインに仕上げてくださいました。英語表記のものもあります。本学会員はもちろん、生涯28に賛同いただける方に自由にお使いいただきたいと思っております。学会事務局にご連絡いただければファイルをメール添付で送らせていただきます。

ロゴマークに加えて、生涯28の標語も公募しました（協賛企業のご配慮で、なんと金賞30万円）。募集締め切りは1月15日でした。295作品の応募があり、現在、優秀作品を選考中です。優秀作品（金・銀・銅・特別賞）は4月25日の第69回総会でご披露いたします。乞うご期待！

（学会あり方委員会委員長 天野敦雄）

第42回むし歯予防全国大会 in 新潟

－フッ化物洗口とともに歩んだ歯科保健活動50年－ 開催に関するご案内

<http://www.nponitif.jp/2020zenkokutaikai.pdf>

むし歯予防全国大会は、NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会（日F）が主催する大会であり、1977年の新潟での第1回大会から毎年各地を巡り開催されており、昨年の第41回大会は秋田県歯科医師会が担当され秋田市で開催されました。

2020年度の大会は、フッ化物洗口が開始されて50周年となる節目の年を記念して、新潟県で実施されることになりました。1970年に新潟県西蒲原郡弥彦村立弥彦小学校で、全国初となるフッ化物洗口が開始されました。弥



弥彦小学校での歯科保健活動



フッ化物洗口の状況

彦はフッ化物洗口が開始された記念の地であり、そこでフッ化物洗口が50年間継続実施されてきた歴史や学術的業績、およびその間の普及状況と成果について紹介し、今後さらに歯科保健からの健康長寿を目指した取り組みについて検討します。

大会の期日は、2020年10月31日（土曜日）に弥彦小学校で開催の予定です。最寄りの新幹線駅は燕三条駅になります。

予定されているプログラムとしては、新潟県など行政関係者もお招きして記念式典を第一部として行い、その中で、弥彦小学校でのフッ化物洗口開始と成果報告に関する講演が行われます。

第二部は、「フッ化物洗口50年の成果と新潟県における歯科保健活動の軌跡」をテーマとした基調講演（厚生労働省歯科保健課長 田口円裕先生）や関係者による講演が予定されています。

第三部ではパネルディスカッションを予定しており、生まれた子どもが30歳を迎えたときどのような状態を望むかとの視点から、30年後のあるべき姿と今後の取り組みの方向性を議論していきます。

終了後には弥彦温泉での懇親会も予定されています。弥彦神社では菊祭りが毎年盛大に開催され、多くの観光客が訪れる観光地でもありますので、この機会に弥彦の地をお楽しみください。

また、翌日11月1日（日曜日）には甲信越北陸口腔保健研究会の学術大会も同地で開催されます。併せてご参加をお願いいたします。

（広報委員会 小松崎 明）



弥彦山と弥彦神社の大鳥居

大学／研究機関の教室紹介

第一回は九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座口腔予防医学分野のご紹介です。

<http://www.prevent-dent-kyushu-u.com/>

(1) 口腔予防医学分野とは？

口腔予防医学分野は2000年の大学院重点化の際に予防歯科学講座と口腔細菌学講座が母体となって設置された3つの研究分野を2009年に統合して産声を上げた新しい歯学の研究分野です。端的には口腔衛生学と口腔細菌学の統合ですが、他大学では例がなく、奇異な取り合わせに驚かれる方も多いかもかもしれません。しかし、日本初の衛生学教室である東京帝国大学衛生学教室の初代教授 緒方正規博士はベルリン大学で細菌学を学んだ細菌学者であり、同教授在職25周年記念祝賀会で北里芝三郎博士が門弟として緒方博士から細菌学の手ほどきを受けたとの祝辞を残していることから細菌学が衛生学の礎であることを知ることができます。九州大学では、1904年に京都帝国大学福岡医科大学に設置された衛生学教室から派生した第二衛生学教室を基に九州帝国大学の細菌学教室が1923年に誕生しており、むしろ衛生学が細菌学の礎となっています。細菌感染症が人類の脅威であった時代は、命を衛るという意味の「衛生」を完遂するために細菌学が必須であったのです。

しかし時代は変わり、人類の健康の脅威は細菌感染からウイルス感染症、悪性新生物、生活習慣病あるいは公害などの環境問題へと変遷して、疾病構造も大きく変貌してきました。それに伴い衛生学の主要な学問領域は細菌学から幅広い分野に大きく広がり、相対的に衛生学と細菌学のつながりが薄れる中で、両学問の関係も巷では忘れら

れつつあります。ところが、歯科疾患ではう蝕や歯周疾患など口腔細菌を直接あるいは間接的な原因とする疾病が依然として幅を利かせています。近年では若年者のう蝕の減少という大きな変化はあるものの、過去百年以上歯科の2大疾患がう蝕と歯周病であることには変わりがなく、口腔衛生学の発展には口腔細菌学は欠かせない学問領域です。このような事実を踏まえると口腔予防医学分野の成り立ちは決して奇異なものではなく、必然の帰着であることを理解していただけるのではないのでしょうか。

(2) 予防歯科学講座の沿革

1973年に開設された予防歯科学講座の初代教授として大阪大学歯学部予防歯科学講座の森岡俊夫助教授が就任されました。当時は*Streptococcus mutans*に対する溶菌酵素の研究、同菌の産生する菌体外多糖についての研究等が盛んに行われ、1980年頃からレーザーによるう蝕予防の研究が始まり、その後レーザーの歯科臨床への幅広い応用が講座の主要テーマとして研究が行われました。

1992年に森岡教授が定年退職後、九州大学歯学部1期生で国立予防衛生研究所（現国立感染研究所）口腔科学部の古賀敏比古部長が後任教授として就任されました。講座の研究は、予防歯科学に基づく基礎的研究から臨床的研究、さらに地域歯科保健活動まで多岐にわたり、現教授の山下も2000年まで助教授としてその研究活動を支えて、世界的に注目される研究成果が次々と生まれました。大学院重点化による組織改編で、予防歯科学講座は2000年から前述の通り口腔予防科学分野と環境社会歯科学分野の2つの研究分野を担当し、2009年に口腔感染免疫学分野を加えて口腔予防医学分野となりました。

2001年に古賀教授が不慮の事故で早世したことで、2003年7月に日本大学歯学部衛生学教室に教授として転出していた山下が予防歯科学の診療科を併設した口腔予防科学分野の3代目の教授として就任しましたが、国立大学の法人化に伴い2006年に診療科を廃止して基礎研究分野となりました。山下の教授就任後は、口腔予防科学分野・環境社会歯科学分野で継続されてきた研究を発展させるとともに、新たな研究分野を展開させています。

(3) 口腔予防医学分野の研究

本研究分野では過去の先入観に縛られない斬新な視点を大切にして、疫学研究を中心としたう蝕や歯周疾患の病因論を進めるとともに口腔と全身の健康の関連性の解明を目指しています。世界的にもその名が知られている久山町コホート研究では歯科部門を担当し、2007年、2012年、2017年の大規模健診においては2,000名を超える歯科健診受診者から唾液試料の採取を始めとした口腔診査データを収集しています。特に、次世代シーケンサーを用いた唾液マイクロバイオーム解析では、これだけの数の住民について全身の健康情報を含めて10年間の継続的なデータを集めている例は世界的に見てもほとんどありません。今後、口腔細菌構成と口腔や全身の健康との関連、口腔と全身の健康との関連に口腔細菌構成が及ぼす影響などについて新たな知見が得られることが期待されます。さらに久山町以外でも、疫学研究フィールドとして小児集団を1地域で、成人集団を2地域で、高齢者集団を4地域でデータを収集しています。これらの多様な疫学研究フィールドのデータ解析によって、歯科保健事業が健康の維持・増進に果たす役割の解明を目指しています。

最後に、当研究分野で毎年恒例となっている松葉ガニパーティーの風景をご紹介します。このパーティーは本研究分野では歯科保健医療を進めるうえで食の大切さを知る必修カリキュラムの一つとなっており、1単位/回で博士の学位取得には4単位が必須となっています。

(九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座
口腔予防医学分野教授 山下喜久)



口腔予防医学分野で毎年恒例となっている松葉ガニパーティーの風景

各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。
詳細は、学会誌第70巻第1号および第2号をご参照ください。

1 次期代議員・理事の選出について

2020年度は次期代議員および次期理事（任期：2021年社員総会終了時～2023年社員総会終了時）を選出する年度にあたります。学会員の皆様におかれましてはご確認をお願いします。

2 学会認定医申請・更新（2020年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、[一般社団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則](#)を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで（消印有効））。

3 学会指導医申請・更新（2020年度分）について

資格を満たすと思われる学会認定医は、[一般社団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則](#)を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで（消印有効））。

4 認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2020年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、[一般社団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士専門審査制度規則・細則](#)を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで（消印有効））。

5 歯科衛生士委員会企画シンポジウム開催について（学会ホームページをご参照ください）

日 時：2020年4月25日（土）

場 所：福岡国際会議場

内 容：テーマ「歯科衛生士が、そこにいる価値」

座 長：尾崎哲則， 演者：武井典子， 池田由紀江， 高野ひろみ， 久保山裕子

6 第25回日本口腔衛生学会認定医研修会（学会ホームページをご参照ください）

日 時：2020年4月24日（金）

場 所：福岡国際会議場

内 容：1. 認定医制度新規申請・更新上の注意

2. 「高齢者の「摂食機能」を地域でサポートするために」講師：長谷剛志

3. 「ワーストからベストへ！ー県行政の取り組みー」講師：岩瀬達雄

7 第12回日本口腔衛生学会指導医研修会（学会ホームページをご参照ください）

日 時：2020年4月25日（土）

場 所：福岡国際会議場

内 容：1. 「指導医に期待すること（仮）」講師：山下喜久

2. 「認定医・指導医制度について（仮）」講師：嶋崎義浩

8 [サンスター財団のジョスリン糖尿病センター等への留学助成](#)

一般財団法人サンスター財団では、糖尿病、歯周病など糖尿病の合併症の予防・治療を目指した基礎研究・臨床への応用研究支援の一環として海外留学助成を新しい内容で再開します。

募集期間は2020年4月1日～6月15日で、国内の大学、研究機関、医療機関の糖尿病、歯周病の専門家で構成される選考委員による独立性・公平性を重視した書類審査等を経て医科系1名、歯科系1名の留学助成金受給者を決定、2021年から2年間留学するスケジュールとなります。

9 [2020年度富徳会研究助成募集](#)

公益財団法人富徳会では、歯科衛生学および歯科衛生教育の向上につながる研究を助成すべく研究者に研究費の補助として2020年度の各種助成の募集を行います。応募者は富徳会ホームページより所定の用紙をダウンロードし、申込みを行ってください。

学会ニュースレターの発刊に際して

山下喜久（日本口腔衛生学会理事長）



プレートナンバーに注目！

昨年5月に本学会理事長を拝命して、早1年になろうとしています。新執行部では外向きのアピールを強化することで、学会内に留まらず歯科界全体ひいては社会全体に本学会の事業活動とその必要性を理解してもらうことを目指しています。一昨年、札幌で開催された本学会総会で「健康な歯とともに健やかに生きる－生涯28を達成できる社会の実現を目指す－」の学会声明を採択したことは記憶に新しいところですが、本学会ニュースレターで紹介されているようにそのロゴマークも作成し、永久歯28歯を維持することが一個人にとってなぜ有益なのかについて一般社会の理解を深めていきたいと考えています。生涯28を目指すためには歯科保健医療制度の改革が必須となりますが、そのためには医療者サイドからの視点だけでは十分とは言えず、一般市民の声が重要となります。そのためにも学会内への情報提供に加えて、外部への情報発信が不可欠であり、またその方法論も多彩でなくてはなりません。

新執行部を組閣する際に広報委員長に伊藤先生を任命し、上述の通り学会外部への情報提供にも十分に配慮いただけるようお願いしました。この学会ニュースレターはまさにその第一歩と言えます。本学会の財務は決して潤沢とは言えず、広報活動にも自ずと縛りがあると思いますが、限られた中での前向きな試みとしてこのニュースレター発刊を評価いただければと思います。とは言え、様々な点で緊縮財務をお願いしている中で、広報については少し緩いのではないかとのご批判もあるかもしれません。しかし、ただ財布の紐を締めるだけでは組織はそのまま縮小するだけです。直近の新型コロナウイルス感染対策に例えるならば、部屋に閉じ籠もっていればウイルスに感染するリスクはないでしょうが、それを続ければ何時か餓死してしまいます。つまり、財布の紐を締めた分何かにわれわれの未来を託す必要があります。広報活動はまさにその未来を託すところです。

最後に本学会理事長として、伊藤広報委員長を始めとして、広報委員の皆様のご活躍にこの場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、皆様の益々の今後のご活躍を祈念いたします。

編集後記 広報委員会より

およそ一年をかけて準備を進めてきたニュースレターが、いよいよ発行となります。記念すべき創刊号の特集は「第69回日本口腔衛生学会・総会の開催について」となりました。第69回日本口腔衛生学会・総会の現地開催は中止となりましたが、シンポジウム座長の先生方に「第69回日本口腔衛生学会・総会案内」としてご寄稿いただいた原稿は、そのまま掲載することとしました。

SNSの登場によって情報発信のありかたは大きく変わりました。情報収集が容易になった一方、信頼性の高い情報の入手は大きな課題となっています。学術団体の広報活動の重要性は増しており、ニュースレターは活動の一翼を担うものと考えています。

メールでのニュースレター配信は、迅速な情報発信を可能とします。第69回日本口腔衛生学会・総会についても、大会長の最新メッセージをお伝えすることができました。ニュースレターの有用性や発展性をあらためて感じております。

会員の皆様には、本ニュースレターを会員相互間の情報交換のためだけでなく、他職種や広く一般市民に対して本学会を紹介するツールとしてご利用いただけることを願っております。そのためにPDFファイルの転送や印刷物の配布はご自由に行ってください。引き続き、会員の皆様のご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(内藤真理子)